

自然保護部 野生動物の森 24 歴史と自然を歩く 2015.12  
酒井忠次 鳶ヶ巣山砦奇襲隊 松山越の道（長篠・設楽原の戦い）



宗堅寺本 『長篠軍記』には下部に酒井忠次、鳶ヶ巣山奇襲隊の松山越の道が朱線で描かれている。丸で囲った部分はその道である。吉川、松山観音、菅沼山、ボバウジ（ボボウジ？）などの地名が書き込まれている。

天正3年（1575年）長篠・設楽原の戦いにおいて、武田軍は長篠城包囲のために、君ヶ臥床、姥ヶ懐、鳶ヶ巣山、中山、久間山の5つの砦を築いた。鳶ヶ巣山砦はその中の1つ。砦には信玄弟の武田信実、小宮山信近ら1千が構えた。

旧暦5月21日、織田・徳川方の酒井忠次率いる約4千の部隊が夜半、吉川集落から松山峠を越え鳶ヶ巣山砦を奇襲した。武田軍の包囲網は崩壊、信実他多くが討死して砦は落城。武田軍はこれにより長篠城包囲をあきらめ設楽原において織田・徳川連合軍と全面対決へと舵をきった。まさに長篠・設楽原の戦いの命運を分けた戦いとなった。

以前、私が船着山から常寒山を歩いた時、松山峠で「鳶ヶ巣奇襲隊進路



松山越」の石柱を見た。その時から、私は酒井忠次の松山越、鳶ヶ巣山砦奇襲ルートに関心を寄せるようになった。実際に歩く際に参考にしたのは『長篠・設楽原の戦い史跡案内図』（新城市教育委員会平成11年）。設楽原歴史資料館、長篠城史跡保存館で購入できる。

実際に歩いたルートを、GPSアプリを基にワードで作図した。



このルートで最大の難所は松山観音堂跡から松山峠までの急峻な岩場がある山道だろう。松山峠には、「鳶ヶ巣山奇襲隊進路松山越」（長篠戦没顕彰会、大正3年）の石

柱がある。

松山峠を越えれば後は尾根道だ。踏み跡は残っている。道幅は狭い。約4千の大部隊が果たしてこの急な山道を登って行ったかどうかは多少疑問である。小部隊に分けてルートを分散して進軍したのでは？

地名が書かれた木製の標柱がルート上にある。

これがルート上の目印となるが、途中からなくなるのでコンパスと地形図は必携だ。



吉川から休憩時間を含めて約4時間10分、松山峠から約3時間で「鳶ヶ巣山砦跡」に到着する。鳶ヶ巣山砦の石碑と案内板がある。

酒井忠次の部隊が奇襲を仕掛けた旧暦5月21日は梅雨の只中。雨中夜間の行軍であり

難儀を極めたと思われる。

酒井忠次の奇襲は長篠・設楽原の戦いでは「火縄銃」「馬防柵」「鳥居強右衛門」の陰に隠れてしまい目立たないが歴史を大きく変えた奇襲攻撃

だったといえる。



砦跡から西に進むと展望のよい場所に出る。そこからは長篠城は丸見えだ。武田方からも織田・徳川連合軍からみても、展望のきくこの鳶ヶ巣山砦はやはり最重要

な砦であったことがわかる。

酒井忠次隊の奇襲ルートが実際どこを通ったのか思いを巡らせながら、吉川から松山峠、鳶ヶ巣山砦までの歩いてみるのもおもしろい。(S)

\*自然保護部では2~3月にこのコースを歩く企画をたてています。地元の歴史、文化や自然に興味のある方は是非とも一緒に歩きましょう。